

News Letter of Sapporo Nature Research & Interpretation Office

# 調査館通信

29+30

2006.01-06.

## 制作・発行=さっぽろ自然調査館

- ◆千004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階
- ◆電話= 011 - (892) - 5306 ファクス= 011 - (892) - 5318
- ◆電子メール= chosakan@cho.co.jp
- ◆郵便局払込口座= 02740-2-58150 [(株)さっぽろ自然調査館]



2006.07 発行  
<http://www.cho.co.jp/>



●藻岩山・円山野ネズミ調査日記 → 32頁



◆茨城自然博物館



◆国立科学博物館（新館）



- 関東自然史博物館めぐりレポート  
 ・その2（東京茨城編）→ 1頁
- 自然史研究入門 ～その現状と課題～  
 ・その2 → 24頁
- 今月までの活動・ニュース  
 → 34頁・裏表紙
- 調査館事務所の紹介 → 38頁

## 今月までの活動・ニュース 1-6 月

今回は久しぶりに元旦発行ではないので、活動報告は半年分の報告です。  
毎年恒例の行事も多くなりましたが、読んでくださいまし。

## 1 月

## ●札幌市樹脂標本講座[21 日～]

毎年の恒例行事になった札幌市博物館活動センター主催の樹脂標本作製講座。今年が 4 年目で樹脂標本製作班が作製の指導を行なった。子どもから大人まで 12 名が参加し、3 週にわたって樹脂標本の製作に取り組んだ。今回の参加者は今までにも参加した子が多く、この講座のために夏に採集したクワガタなどの虫の標本をもってきて、オリジナルの樹脂標本を製作した。(の)

## ●釧路湿原自然再生協議会・実施計画確定へ[22 日]

釧路で協議会が開かれ、達古武地域の自然再生実施計画が了承された。実施計画というのは、実際に自然再生を行なう人がつくる事業計画で、目的ややり方を協議会で確認してもらう作業が必要となる。全国的に見てもまだ 2 つしか出来ていない(ちなみに一号は佐賀の檜原湿原だが、かなり無茶苦茶な内容)。

釧路の実施計画としても、旧川の復元を計画している茅沼地区に続くものとなった。地元の人に見てもらったり(達古武という集落は 20 軒程度しか住んでいないのだが)、今までの調査成果を整理した集大成にしたりといったことで計画づくりに関わって感慨深いものとなった。(お)

## ●藻岩・円山動物調査[26 日～]

昨秋から始めている札幌市の動物調査業務。雪上に足跡が残りやすいこの時期は、動物調査に最適な季節である。藻岩山でエゾシカの群れが越冬していることが分かった。高層マンションのすぐ裏で

4 頭の群れを見かけたが、糞塊や足跡などからすると 20-30 頭は越冬しているのではないかとよく見ると、オヒョウの樹皮剥ぎやトドマツの角とぎ痕も結構目立つ。また、2 年前の台風でトドマツ人工林に風倒木がたくさん出たが、その樹皮下にキクイムシが大発生している。フマゲラを含むキツツキ類が剥いて食べた痕跡がとても目立っている。なお、この地域で減少が著しいとされるエゾユキウサギは、とうとう一度も足跡を確認できなかった。(に)



## ●滝野公園・森林体験プログラム[29 日]

滝野すずらん公園の未開園区域の森林体験ゾーンを使っでの調査・活動体験プログラムの第 7 回。前半は修が滝野の森林の特徴についてプロジェクターを使ったレクチャーを行なった。後半は野外に出て、木の高さや直径などの木の測り方についての学ぶ。樹高ポールや測高器を使って予想しながら実習を行なった。(の)



## ●自然に関する講演の視聴① [29 日]

北広島市と北広島森の倶楽部の共催で、帯畜大の柳川久助教授を招待した講演会

が開かれた(「身近な野生動物といっしょに生きていく方法」)。開催地が郊外だった割にはたくさん(70名ぐらい)の視聴者を集めていた。身近な動物とは、エゾモモンガ・エゾリス・シマリス・コウモリ類のことである。道路などで生息環境が分断されるときには、野生動物の移動を妨げないようにするために、さまざまな工法が採られているという。道路の盛土部分にカルバートと呼ばれるトンネル状の空洞を入れて、動物が通りやすいように仕掛け(足場)をつけたり、モモンガの滑空用の竿を立てたりといった実例が紹介された。柳川先生の語りかけるような口調やこなれた話し振りは、聞きやすく勉強になった。中休み時には、富良野の高校生(生物部)のポスター発表などもあって、なかなか雰囲気もよかった。(に)

---

## 2月

---

### ●植物標本の同定作業[2日～]

北海学園大の佐藤謙先生の研究室で、昨年厚沢部で採集した大量の鋸葉標本を台紙に貼った



り同定したりといった作業を行なう。ふだん自己流の同定作業をしているので、厳格な方法に少し戸惑うが、スゲ属の同定方法などはかなり勉強になった。(に)

### ●釧路資料収集 & 冬季調査[23～24日]

シラルトロピジターセンターの展示業務に関連して、釧路湿原周辺に点在する各種自然展示館の撮影や資料収集をする。駆け足で、釧路市北斗展望台、温根内ビジターセンター、釧路湿原野生生物保護センター、塘路ビジターセンター、標茶郷土館をめぐる。温根内では窓ガラスに衝突して死んだ野鳥類などをもらう。この頃暖かい日が多かったせいか、北斗展

望台の玄関にはまだ越冬中のはずのカメノコテントウがたくさんはい出してきていた。また、達古武における冬の調査も行なったが、ここ2-3年の中ではとても積雪が少なかった。冬越しするエゾシカにとっては楽な冬だったのではないか。しかし、春までに調査中の稚樹がかなり被食されることが予想される。(に)



---

## 3月

---

### ●自然に関する講演の視聴②[4日]

札幌市が主催で、東大総合博物館の大場秀章教授(植物分類学)を招待して講演会があった(「自然の体系～自然の神秘を解き明かす人類の知の営み～」)。著名人ということもあるだろうが、視聴者は150名ほどいるかと思われるほど盛況だった。古代ギリシャ時代からリンネ、現代に至る自然観(自然史研究)の変遷など、話題の格調は高いが、ややマニアック過ぎて寝ている人も目立った。また、午後は札幌で見つかったサッポロカイギュウの化石にちなんで、シンポジウムが開かれた(「『大型動物化石総合調査』公開報告会」)。会場には巨大なカイギュウの実物大?レプリカが運び込まれていた。(に)

### ●博物館標本データベース検討、生物多様性センター[14日]

国立科学博物館の新宿分館で、自然史系博物館をネットワークして標本データベースの整備を進める研究会があり、渡辺修が参加。全国の50博物館100名程度が参加していて、人の多さにビックリ。

各博物館の既存データをGBIFという国際規格の生物データベースに登録しているという話で、必須項目を何にするか、

データの公開をどうするかといった割と細かい話を中心だった。県博レベルが多いので、北海道の市町村立博物館では体制がちょっと合わせにくい気もした。課題については今まで北海道レベルで考えてきたことほとんど同じという印象。

翌日は山梨は富士山のそばにある環境省生物多様性センターへ。外来生物の標本作成を依頼されたためだが、新しい標本庫などを担当の桜澤さんに見せてもらった。トキやジュゴンなど貴重な標本も多いが、貸し出しが大変とのこと。封入は上海カニ・アカカミアリ・コーカサスオオカブト・スマトラオオヒラタクワガタ(長い名前...)の4種。大きくはないが展示室も併設されており、展示の絵のふたを開けると、中の模型が喋りだすインタラクティブ展示?も。(お)



### ●シラルトロ自然解説展示の完成

製作を進めていた釧路シラルトロ湖畔の展示がほぼ完成へ。樹脂標本をふんだんに使って、「他にはない」展示で、釧路湿原の自然を紹介している。5/1に新キャンプ場わきにオープンしたが、ほとんど人に知られていないような。展示の詳細については、別途紹介予定。(お)

---

## 4 月

---

### ●北海道植物友の会総会[1日]

北大農学部を今春取得された持田誠さんによる講演があった(「植物群落を記録するために~植生調査の歴史と方法~」)。混同されやすい植生(ベジテーション)と植物相(フロラ)の違い、植生の分類に関する解説などがあった(基群集-群集-軍団など)。系統分類の基本となる種と異なり、植生遷移などで短時

間で変化しやすいこともあって、厳密なルールに則った分類はなかなか難しい。また、北海道にはまだ植物誌がないので、植物友の会のような場が中心になって盛り上げていきたいと思いますというお話もあった。なお、持田さんは4月から北大図書出版会(旧図書刊行会)に就職されたので、主宰される野幌研究会もこれで安泰である。会報「菩多尼訶」24号が配布された。(に)

### ●自然に関する講演の視聴③[8日]

ヒグマの会などが主催する講演会があった(「ヒグマとどう付き合うか?」)。『よいクマわるいクマ』(北海道新聞社)の出版と教育ビデオ『ヒグマとともに』の完成を記念したもので、製作に携わったヒグマの会の前田菜穂子さん、写真家の稗田一俊さんらがトークを行なった。200名を超す視聴者とマスコミの多さに市民の関心の高さが伺われる。目玉の一つだった萱野茂さんの講演は体調不良のため取りやめになったが(その後逝去された)、質疑応答などはなかなか熱かった。「クマなんていなくていい」という意見に代表されるように、年配者の中にはクマへの恐怖心と敵意が非常に根強いことを感じさせる。なかなか、タイトルに沿った冷静な議論にはなりづらいというのが正直な印象だった。(に)

---

## 5 月

---

### ●倶知安・百年の森カタクリ調査[14日]

毎年恒例の倶知安百年の森のカタクリ調査。最近ファンクラブだけで調査をする年が多



かったが、2年ぶりに倶知安へ行き調査を行なった。2004年秋の倒木の影響で昨年度はカタクリの花が減ったと聞いていたが、たしかにトドマツやシラカバなど

の倒木が多く、芽を出せないカタクリも少なくなさそうな状態だった。ただし、光環境が良くなった場所ではカタクリが増えている、今年の全体の開花数は一昨年のみに回復していた。（の）

### ●滝川・親子自然観察会〔20日〕

美術自然史館主催による親子自然観察会「春の野の花をさがそう!」の講師役として出掛



ける。この時期はどこも春の花が美しいので、身近な自然のなかで花の観察と標本採集をテーマに行なう。子どもたちは学校ですでにいろいろな花のつくりや受粉の仕組みなども習っているので、親御さんよりも知識は多かったりする。慣れるのも早いので、ミミナグサなどの目立たない花も講師より先に見つけ出してしまおう。小型のスケッチブックを各家族に1冊ずつ配り、採集した花を1ページに1種ずつセロテープで貼り付けてもらう。標本一枚ずつに特製の標本ラベルを貼って標本ノートが完成。標本ノートはお土産として持ち帰ってもらった。雨が心配されたが好天に恵まれ、思ったよりも大勢の参加者があった。観察会終了後には、今年度から始まる「たきかわ野の花研究事業」に関連して打ち合わせ会議。この事業では自然学習教材づくりとして、草花を材料にした樹脂封入標本を製作することが検討されている。（に）

### ●釧路・調査と標本採集〔23～24日〕

今シーズン最初の釧路・達古武。森林再生試験区のようなすを見に行く。ここで北大中村研の院生が実生の実験のため播種をした。その後、シラルト口の展示の撮影、写真提供者へのお礼回りなど。たまたま標茶の京大演習林で変わったツクジュソウの花が咲いているので封入して欲しいと頼まれて採集して持ち帰る。花

の中から葉や花が出る変形で、ちょい気持ち悪い。咲く季節もずれていた。（お）



### ●藻岩山円山・動物調査〔15日～〕

昨年に引き続き、札幌市の博物館活動センターのお仕事で、藻岩山・円山の動物調査を実施。



今年度は、両生類・ザリガニ類・魚類などの沢沿いにくらす生き物を対象に生息状況を調査する。すでに両生類の産卵調査やザリガニ調査を実施。ザリガニ調査はザリガニの生態に詳しい斎藤和範さんの協力を得て行なう。住宅地が隣接したり砂防ダムが設置されている場所が多く、沢の生き物も想像していたよりも、生息数は少ない印象。残念だけれども、自然の改変の影響を受けやすい沢の生き物は藻岩山・円山でも確実に減少しつつあるのかもしれない。調査は秋まで行なう予定。（の）

---

## 6月

---

### ●アポイ岳観測機器回収〔2日〕

恒例行事となりつつあるアポイ岳の観測機器の回収に、道環境研・ファンクラブの人たちと行く。今年は季節が遅いため、ヒダカソウの花はほとんど終わっていた。温度・積雪のデータは無事回収できたが、風力のデータが入っておらず、がっくり。“出張時のお楽しみ” 開発に余念のない環境研・宮木さんは、鶴川の千しダコと三石温泉の食事がお気に入りとか。（お）



## ●キリギシ山希少植物調査〔16～17日〕

北海学園大の佐藤謙教授とともに、2年ぶりに夕張山系のキリギシ山を訪れる。この調査に前



後してキリギシ山に関するマスコミ報道がいくつかなされていたので、道内の読者の中にはテレビ報道や新聞記事を見た方もいるかもしれない。キリギシ山は入山規制を始めて6年目になる。その6年前からモニタリングしているキリギシソウ・キバナノアツモリソウ・ホテイアツモリソウなどの調査を今回も行なった。キリギシソウの開花株数は規制後も減少傾向だったが、今年はやや回復が見られた。また、長期モニタリングを目的とした植生調査用の固定調査区が設定された。なお、今回キリギシ山でナキウサギの貯食痕（新鮮なもの）が見つかり、初めて生息が確認された。（に）

## ●ひがし大雪・ガイド養成講座〔25日〕

ひがし大雪博物館では、毎年一つのテーマを決めて、5回の連続講座を行なっている（講師は毎回



替わる）。今年のテーマは「森林」で、林業・植物・野生動物・地衣類・菌類の専門家が各回の講師を務める（[http://happytown.orahoo.com/hi\\_tomonokai/](http://happytown.orahoo.com/hi_tomonokai/)）。うちの担当は植物で、「林床に生きる植物の生態」というタイトルで講義（午前）と実習（午後）を行なった。講義では、林床植物の葉の広げ方や開花特性などの生態について草原植物と比べたり、春植物や腐生植物の特殊なライフスタイルから林床環境の特徴を解説したりした。また実習では、班に分かれて林床に調査区を取ってもらい、植生調査をしながら林床植物を観察してもらった。林床は地味な世界だが、講義や実習を通して、林床における生物間のネットワークや、林床植物の独特な暮らしぶりに興味を持ってもらえるよう努めた。（に）

## 調査館事務所の紹介

渡辺 修

以前お知らせしたかと思いますが、調査館の事務所は2004年4月に現在の場所に引っ越してきています。会社としては2つめ、NGO時代から通算で4つめの事務所となります。場所は会社を設立したのと同じ新札幌で、前の事務所から割と近いところにあります。

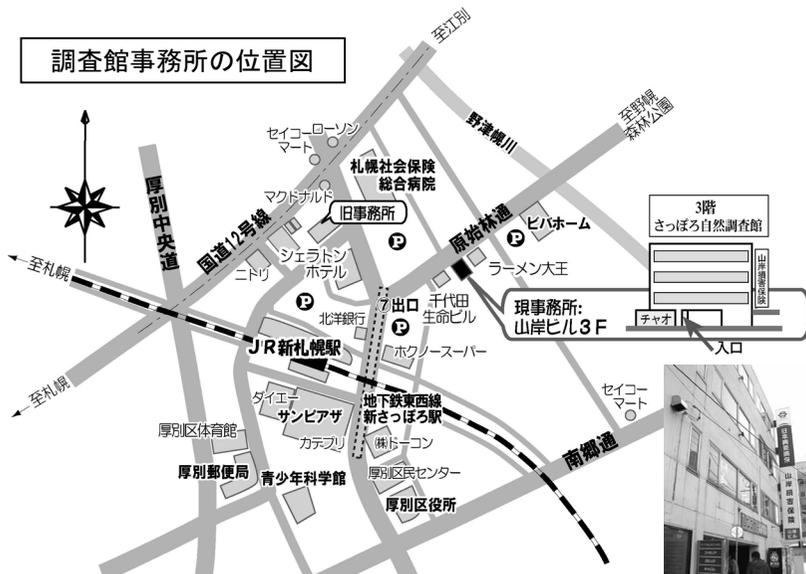
一体、どんな事務所で、どんなところの中で仕事をしているのか...「調査館」という名称から、博物館のような展示を想像する人もいるくらいで、ナゾだと思われるようです（笑）。今回は、事務所の場合

と中の様子をご紹介したいと思います。前の事務所についても、ご紹介する機会がなかったもので、ついでに図を載せました。

前はマンションタイプであったため、小さな部屋に分かれていて、使わない風呂場などもあったが、今度のところは倍近い広さでスッカリ。資料や図書、標本など、たまる一方の物資の置き場も余裕ができた。

札幌中心部からは距離がありますが、JRや地下鉄ですぐに来られますし、市外から車でも来やすい所にありますので、機会がありましたらご訪問くださいませ。

## 調査館事務所の位置図



旧事務所から見た新事務所



ビルの入り口 事務所の東方面。大王とビバホーム

新旧の事務所とも、新札幌駅からすぐのところ。新札幌へはJR千歳線・地下鉄・12号線・南郷通などで!!



## 旧事務所の間取り図 2000.04 ~ 2004.03



標本製作室

元々資料室予定だったため、半分は本棚がある。その後二人にはかなり手狭な製作室となった。

玄関にいきなり-60℃のフリーザー。他に置く場所がなかったため。

本来のキッチンだが、当然お茶沸かすくらいにしか使っていない。



社員の机は、それぞれパソコンが乗っていてLANでつながっている。インターネットとは2000年以降ずっとISDNだった。

展君はパソコンを2台同時に使っていたりした。



標本の材料置き場

標本完成品置き場

調査道具や植物標本、余った報告書など、雑多なものを押し込んでいた部屋。骨格標本づくりや昆虫のソーティングなど、怪しい(臭う)仕事もここでやっていた。

押入れには、植物標本や調査道具などが詰まっていた。

洗濯機置き場に研磨機を置いていた。

風呂として使ったことは一度もナシ。胴長や水槽が積み上げられていた。ガス器具の交換に人が来たときはアセった。

押入れの戸をはずして、仕事関係のファイルが並べた。最後の方はあふれて床に並べていた。

予備の入力用パソコン。アルバイトさんがいるときはココ。



資料・打合わせ室

水槽など生き物関係

封入標本の日光浴実験中

シードトラップの材料など

カラープリンタ プランター(イチゴなど)

# 現事務所の間取り図 2004.04 ~

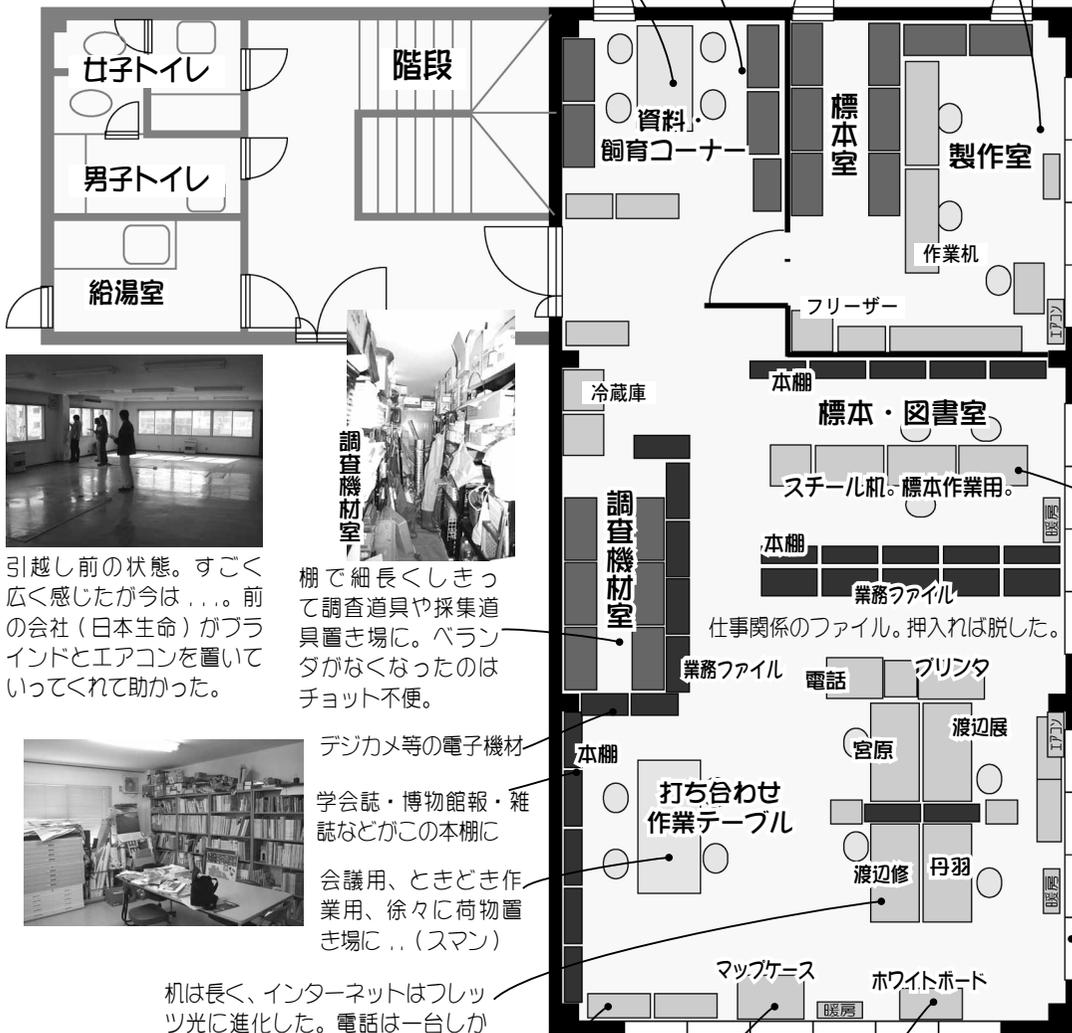


今までに発行した資料・通信や、樹脂標本の最新作などをおいている。飼っているのはエソサンショウウオ・カメラマチチフ・ゲンゴロウなど。

打ち合わせテーブルのイメージもあったが、今は作業台状態。



標本室が分かれて若干余裕が出来た。LANパソコンも1台置いている。



引越し前の状態。すごく広く感じたが今は...。前の会社(日本生命)がフラインドとエアコンを置いていってくれて助かった。



棚で細長くしきって調査道具や採集道具置き場に。ベンダがなくなったのはちょっと不便。



デジカメ等の電子機材  
学会誌・博物館報・雑誌などがこの本棚に  
会議用、ときどき作業用、徐々に荷物置き場に..(スマン)

机は長く、インターネットはフレッツ光に進化した。電話は一台しかないで、最近子機を増やした。

長物の地図類など

中古で3段購入。オリジナルのポスター類

予定を書いている。窓を開けると風で倒れそうに。

データ入力や標本整理のアルバイトはここで。

東から南西にかけて3面が窓のため、鬼のように暑くなる。フラインドは必須。明るいけど、眺めは今イチ。

## ●ビル内の配置

ご案内	ウチの入る前
4F 山形損害保険事務所 (株) グッドウィル	保険 測量
3F (株) さつぽろ自然調査社	保険
2F 日本興亜損保(株) 新札幌支社	保険
1F クリーンパートナーチャコ	会議室

ウチが入る前は保険屋ばかりのビルで違和感があったが、今は随分変わった。3階は実質ウチだけ。人材派遣のグッドウィルが入ってから大分騒がしくなった。1階はクリーニング屋さんが入っている。





滝川・花卉資源収集(10月)



札幌・自然史研究会(10月)



円山藻岩山の動物調査(11月)



滝野・冬の樹木調査(1月)



藻岩山のエゾシカフン(3月)



山梨・多様性センター(3月)



倶知安・カタクリ調査(5月)



滝川・花の観察会(5月)



滝川・花の標本づくり(5月)



標茶・変わりワケジュソウ(5月)



アポイ岳・クマフン(6月)



三石・日が沈む(6月)



藻岩山・ザリガニ捕獲(6月)



藻岩山・ザリガニ計測(6月)



キリギンソウ調査(6月)



キリギン・キバナアツモリソウ(6月)



キリギン・ナキウサギ貯食(6月)



ひがし大雪・林床調査(6月)



藻岩山・オオカワトンボ(6月)



藻岩山・ハナカジカ(6月)

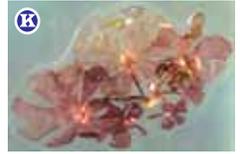
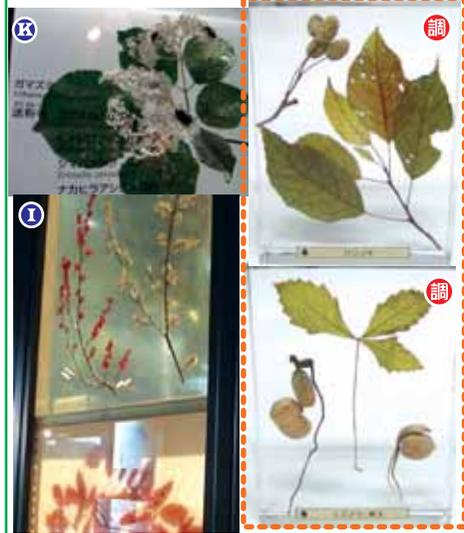
### 樹脂封入標本・対決特集

- G** : 群馬県博
- X** : 国立科学博
- I** : 茨城県博
- 調** : 調査館

#### <花対決>



#### <樹木対決>



#### <ヒシ対決>



#### <シダ対決>



頒価=500円